

5) 久慈川の両生類

久慈川流域は、上流から河口までの間に様々な水環境があり、多くの両生類がみられる。阿武隈淡水動物研究会による茨城県側の調査では6科13種が確認されたが、常陸大宮市（旧大宮町）の辰ノ口堰より下流の区域の調査では5科7種が確認された。流域の両生類の特徴としては、本流や支流の上流域にみられる広葉樹の森と、そこを流れる沢ではハコネサンショウウオやタゴガエルなどがみられること、上流域から中流域にかけての河原にはカジカガエルが確認できること、特に常陸大宮市（旧大宮町）より下流の丘陵地にはトウキョウサンショウウオの生息地が多いことなどがあげられる。しかし、サンショウウオ類やアカハライモリ、トウキョウダルマガエルやツチガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルなどは環境の変化によって減少しており、それらの保護対策が必要となっている。

表 6-16 久慈川水系（茨城県側）で確認された両生類

目名	科名	種名	備考
サンショウウオ目	サンショウウオ科	トウキョウサンショウウオ	
		ハコネサンショウウオ	
	イモリ科	アカハライモリ	
カエル目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	
	アマガエル科	ニホンアマガエル	
	アカガエル科	ウシガエル	国外外来種
		ニホンアカガエル	
		ヤマアカガエル	
		トウキョウダルマガエル	
		ツチガエル	
		タゴガエル	
	アオガエル科	カジカガエル	
		シュレーゲルアオガエル	

注：和名は、爬虫両棲類学会(2002)「日本産爬虫両生類の標準和名」に従った。この目録は、1986～2002年の阿武隈淡水動物研究会の調査に基づきとりまとめた。

(稲葉修氏調査資料をもとに作成)



写真提供:稲葉 修氏

トウキョウサンショウウオ
(サンショウウオ科)

全長は成体で13cmほど。関東地方と福島県の東南部に分布している。

久慈川水系では、主に標高200m以下の丘陵地に多く、3~4月に湧水のある池や湿地で産卵する。卵嚢は三日月型。

人里近くに生息するため、生息環境は開発行為の影響を受けやすく、近年各地で減少している。



写真提供:稲葉 修氏

ハコネサンショウウオ
(サンショウウオ科)

全長は成体で19cmほど。本州と四国に分布する。山間の渓流に幼生が、渓流周辺の森林に成体が生息している。産卵は5~6月に水源地の岩の下で行われるとされており、卵嚢の確認は困難である。

久慈川水系では、特に標高500m以上の山間に生息しているが、八溝山周辺や阿武隈山地の沢に多い。しかし、近年では林道開発による環境の変化によって減少している。



写真提供:稲葉 修氏

アカハライモリ
(イモリ科)

全長は最大で13cmほど。日本固有種で、本州から四国、九州に分布する。平地から山地の小川や池、沼に生息し、春から初夏に産卵が行われる。

久慈川水系では、かつては流域の水田や溜池、湿地などに数多く見られたというが、現在は環境の変化によって特に平野部で減少している。支流の山麓部に良好な生息地が残っているが、本種は腹部の模様だけでも差異があることが知られており、その生息地ごとの保護が必要とされている



写真提供:稲葉 修氏

トウキョウダルマガエル
(アカガエル科)

体長は雄で7.5cm、雌で8.5cmほど。関東地方から東北地方にかけてと、新潟県と長野県の一部に分布する。特に平野部の水田に多く、4~7月に水田で産卵する。

久慈川水系では、かつて流域の水田に数多く生息していたが、圃場整備事業等の影響によって激減している。

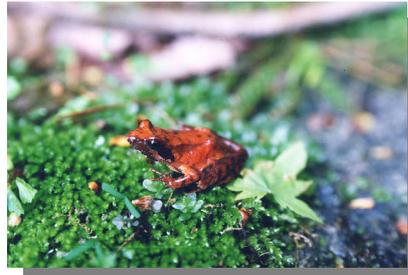


写真提供: 稲葉 修氏

ツチガエル
(アカガエル科)

体長は雄で 4.5cm、雌で 6cm ほど。本州から四国、九州に欠けて分布する。平地から山地の水田や水路、湿地などに生息しており、初夏から夏にかけて産卵する。

久慈川水系では、流域の水田から山地の湿地などにかけて広く見られるが、近年では圃場整備事業等の影響をうけて特に平野部の水田周辺からは減少している。



写真提供: 稲葉 修氏

タゴガエル
(アカガエル科)

体長 5.5cm 前後。本州と四国、九州に分布する。山地に生息し、4~5月、小渓流沿いの水の湧き出るガレ場や岩の間で産卵する。

久慈川水系では、本流沿いでは特に常陸大宮市山方以北の沢に生息するが、山田川や里川に注ぐ沢からも確認できる。



写真提供: 稲葉 修氏

カジカガエル
(アオガエル科)

体長は雄で 4.5cm、雌で 8cm ほど。本州から四国、九州に分布する。主に丘陵地から山地を流れる河川とその周辺の森林に生息している。4~7月に河川中の石の下などで産卵する。

久慈川水系では、以前は多くの支流に生息していて、本流では常陸大宮市以北にも広い範囲に見られた。しかしながら、環境の変化によって現在では特に、本流や人里近くを流れる支流において減少している。



写真提供: 稲葉 修氏

シュレーゲルアオガエル
(アオガエル科)

体長は雄が 4cm、雌が 5.5cm ほど。本州、四国、九州に分布する。平野部から丘陵地の水田や湿地などに生息する。産卵期は4~6月で、水田の畦や土手に穴を掘り、直径 8cm 以下の泡状の卵塊を産む。

久慈川水系流域の水田では、かつてはよく見られたというのが、現在は多くの地点で激減している。